

2024年6月期 第3四半期

決算補足説明資料

2024年5月14日

株式会社オカムラ食品工業 (2938)



- I. 2024年6月期 第3四半期業績（連結）
- II. 2024年6月期 通期業績見通し
- III. 参考資料

I . 2024年6月期 第3四半期業績 (連結)



- サマリー
- Q3業績サマリー
- 営業利益増減要因分析（連結）
- セグメント情報サマリー
- セグメント別売上高増減
- セグメント別営業利益増減
- 要因別セグメント利益増減（養殖事業）
- 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）
- 貸借対照表増減サマリー
- 棚卸資産増減内容
- 設備投資の進捗状況

サマリー

2024年6月期 第3四半期実績

売上高

- 第3四半期（Q3）時点では、売上高は全体としては前期比増収で推移。
- 特に海外加工事業については、売価上昇が増収の主要因。

営業利益

- 営業利益は、主に国内加工事業と海外卸売事業の減益が影響し、全体でも前年同期比で減益。
- 国内加工事業の減益は魚卵相場の調整局面に起因するもの。海外卸売事業の減益はヒト・モノへの先回り支出の影響が大きい。

※なお当社グループにおいては、売上、利益ともに季節変動がある点には注意が必要（参考資料1～3参照）

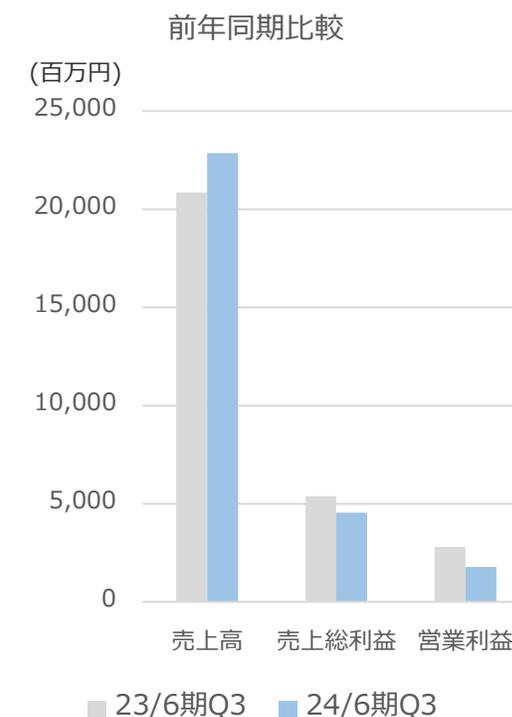
設備投資の進捗

- 当社の成長戦略である国内養殖量の拡大に向けて、ボトルネックとなっている中間養殖場への設備投資（今別第2・第3水槽）を実施、23年10月より稼働。

Q3業績サマリー

Q3時点では、売上高は全体としては前期比増収で推移
営業利益は、主に国内加工と海外卸売の減益が影響し、全体でも前Q3比で減益

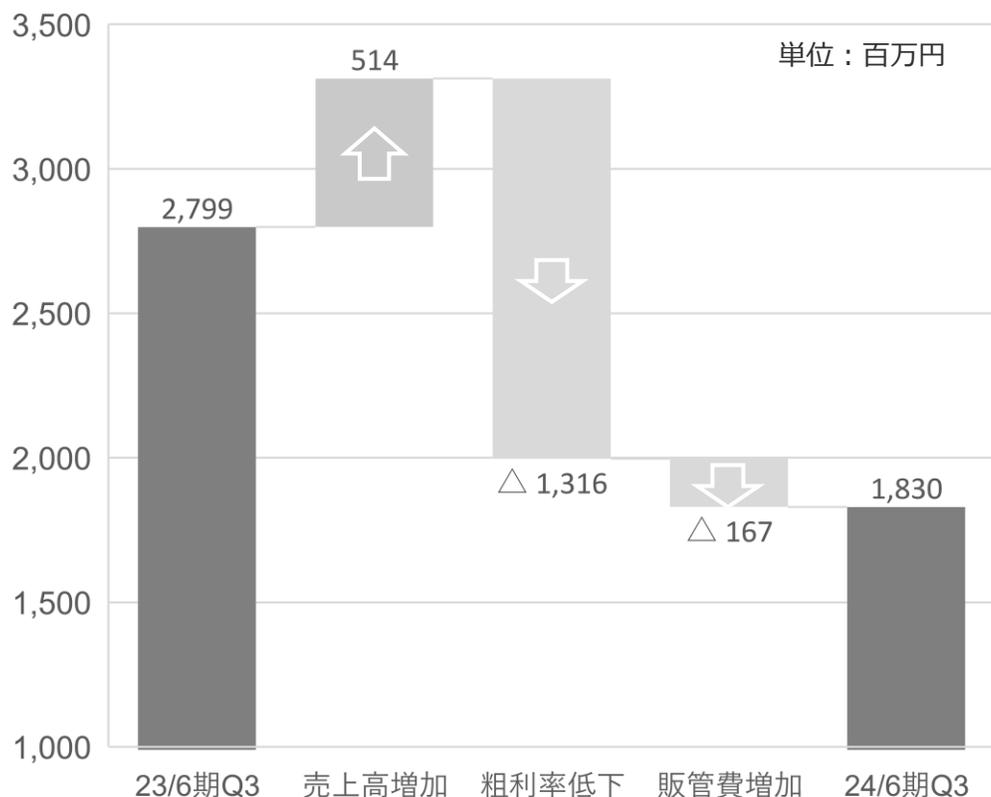
(単位：百万円)	23/6期 Q3	24/6期 Q3	増減	増減率 (%)	<参考> 24/6期通期見込
売上高	20,855	22,848	1,992	9.6	33,941
売上総利益	5,388	4,587	△801	△14.9	
営業利益	2,799	1,830	△968	△34.6	2,261
経常利益	3,033	2,041	△992	△32.7	2,087
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,063	1,374	△688	△33.4	1,419



営業利益増減要因分析（連結）

コロナ禍後の需要拡大により売上が拡大し利益が増加するも、相場やコスト増の影響で粗利率が低下
事業拡大・強化を進める海外卸売事業等で販管費が増加し、営業利益は前年同期より968百万円減少した

要因別営業利益増減



増減補足説明

売上高増加による利益増

前年同期比+514

- 売上高が1,992増加したことにより、営業利益が514増加

粗利率低下による利益減

前年同期比△1,316

- いくら・筋子相場の下落、養殖コストの増加などで利益率が低下した結果、粗利1,316減少

販管費増加による利益減

前年同期比△167

- 事業拡大・強化を行う海外卸売事業、養殖事業を中心に販管費（人件費、減価償却費、保管料など）が167増加

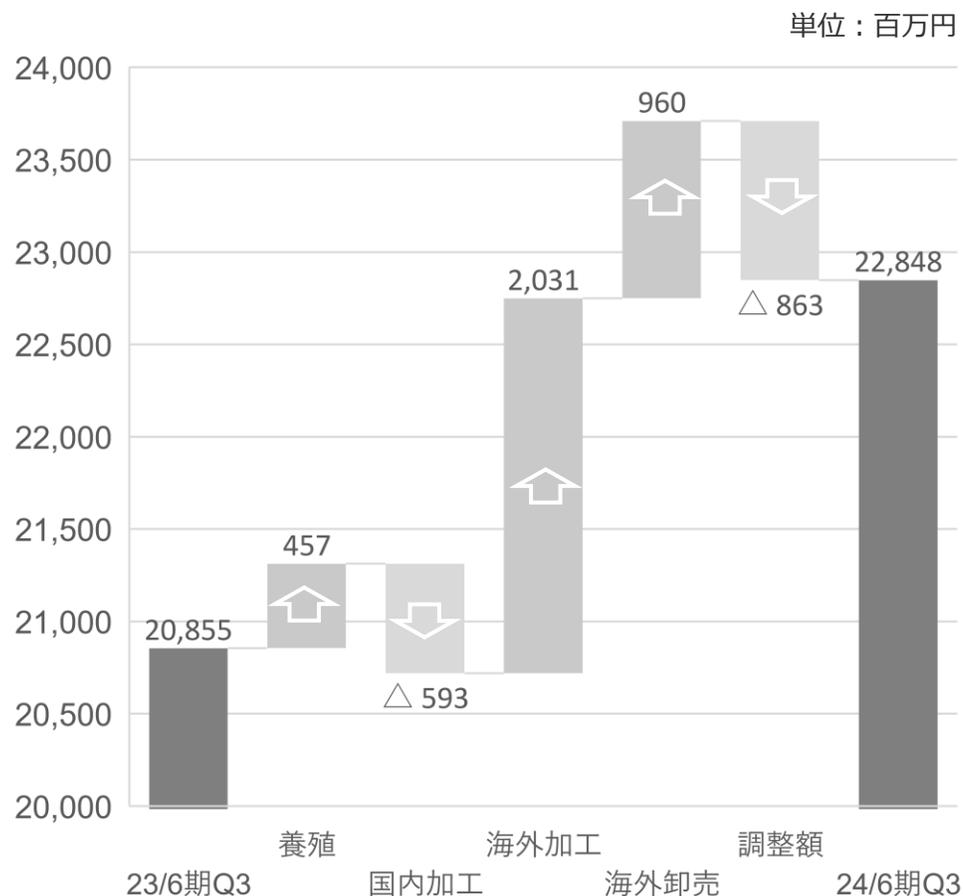
セグメント情報サマリー

(単位：百万円)

	23/6期Q3	24/6期Q3	増減	増減率(%)	増減の内訳		
					為替差	実質	増減率(%)
売上高	20,855	22,848	1,992	9.6	712	1,280	6.1
養殖	3,252	3,709	457	14.1	285	171	5.3
国内加工	6,928	6,334	△593	△8.6	—	△593	△8.6
海外加工	9,193	11,225	2,031	22.1	2	2,028	22.1
海外卸売	5,340	6,301	960	18.0	423	537	10.1
調整額	△3,859	△4,723	△863	—	—	△863	—
セグメント利益	2,799	1,830	△968	△34.6	61	△1,030	△36.8
養殖	762	593	△168	△22.1	50	△219	△28.8
国内加工	1,359	900	△458	△33.7	—	△458	△33.7
海外加工	818	713	△104	△12.8	△1	△102	△12.6
海外卸売	452	196	△256	△56.6	12	△268	△59.4
調整額	△592	△573	19	—	—	19	—

セグメント別売上高増減

セグメント別売上高増減



増減補足説明

養殖

前年同期比+457

- 国内で期首繰越在庫が前年に比べ多かったこと、期中の販売単価が高めで推移したこと、円安の影響で海外養殖事業の売上の換算差益分が拡大したことにより、売上高が増加した。

国内加工

前年同期比△593

- 前期後半から魚卵の市中在庫が超過状況。そのため販売価格が下落したが、市中在庫超過の調整過程で販売数量的には伸びずに売上高が減少。

海外加工

前年同期比+2,031

- 世界的にサーモン相場の高止まりが続く中、国内は価格面が好調に推移、海外はコロナ禍後の市場回復もあり堅調に推移。なお、増加分にはグループ内売上も多く含まれており、これは調整額で消去されるため（調整額絶対値も増加⇒調整額増減△8億円）、連結PLに寄与する外部売上の増加は約11億円。

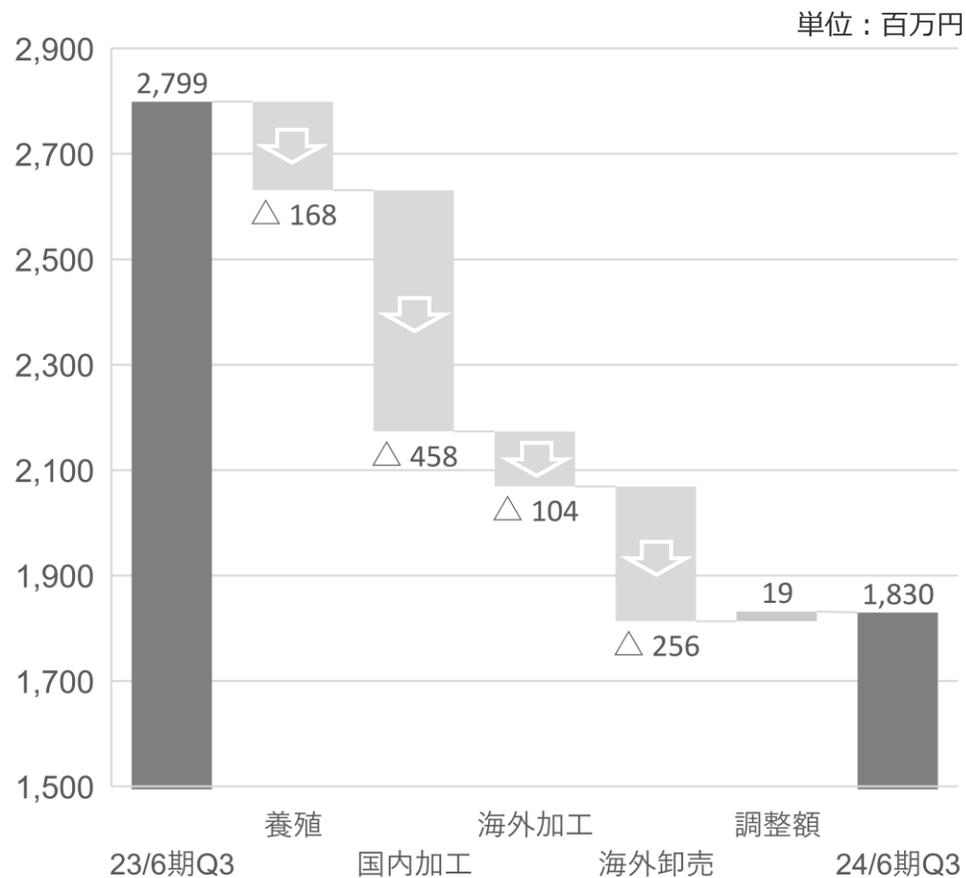
海外卸売

前年同期比+960

- 引き続き需要拡大傾向が継続。

セグメント別営業利益増減

セグメント別営業利益増減



増減補足説明

養殖

前年同期比△168

- 生物資産評価益の減少、販管費の増加などにより減益。

国内加工

前年同期比△458

- 前期までの高騰相場からの調整局面。前期仕入の高単価在庫と調整過程にある販売価格がぶつかり、利益率が大幅低下。

海外加工

前年同期比△104

- 前期は値上げ先行から高利益率。当期は原価高の価格転嫁が十分にできず利益率低下。

海外卸売

前年同期比△256

- 事業拡大・強化に伴うヒト・モノ関連費用の増加などで減益。

調整額

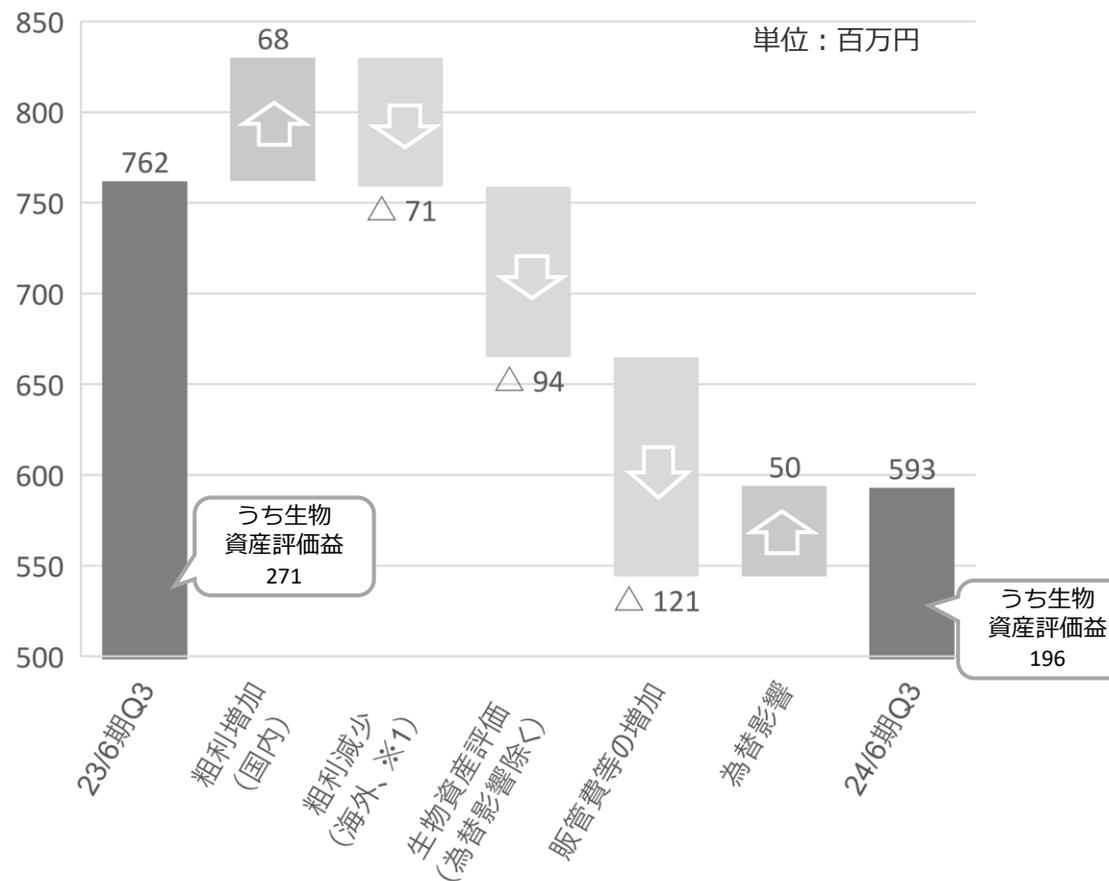
前年同期比+19

- 全社共通費用、在庫の未実現利益控除額の増減。

要因別セグメント利益増減（養殖事業）

見込養殖コストの上昇による生物資産評価益の減少、販管費の増加等により、利益は168百万円減少した

セグメント利益増減



※1 生物資産の公正価値評価と為替影響除く

増減補足説明

粗利増加（国内） 前年同期比 + 68

- 水揚は4-6月のため、Q3現在は前期に水揚した冷凍在庫を販売中。前期繰越在庫が23/6期に比べて多く、24/6期中の販売単価も高く推移したため、粗利増加。

粗利減少（海外） 前年同期比 Δ 71

- 販売時期遅れ（期ズレ）等によりQ3の養殖魚販売数量が Δ 29%（水揚数量は概ね前期と同程度）、魚卵の販売価格の低下 Δ 7%（相場影響）などによる。

生物資産評価 前年同期比 Δ 94

- サーモンの見込販売価格の上昇、期ズレによるQ3在庫増のプラス影響があるものの、見込養殖コストの上昇等から生物資産評価益は減少。

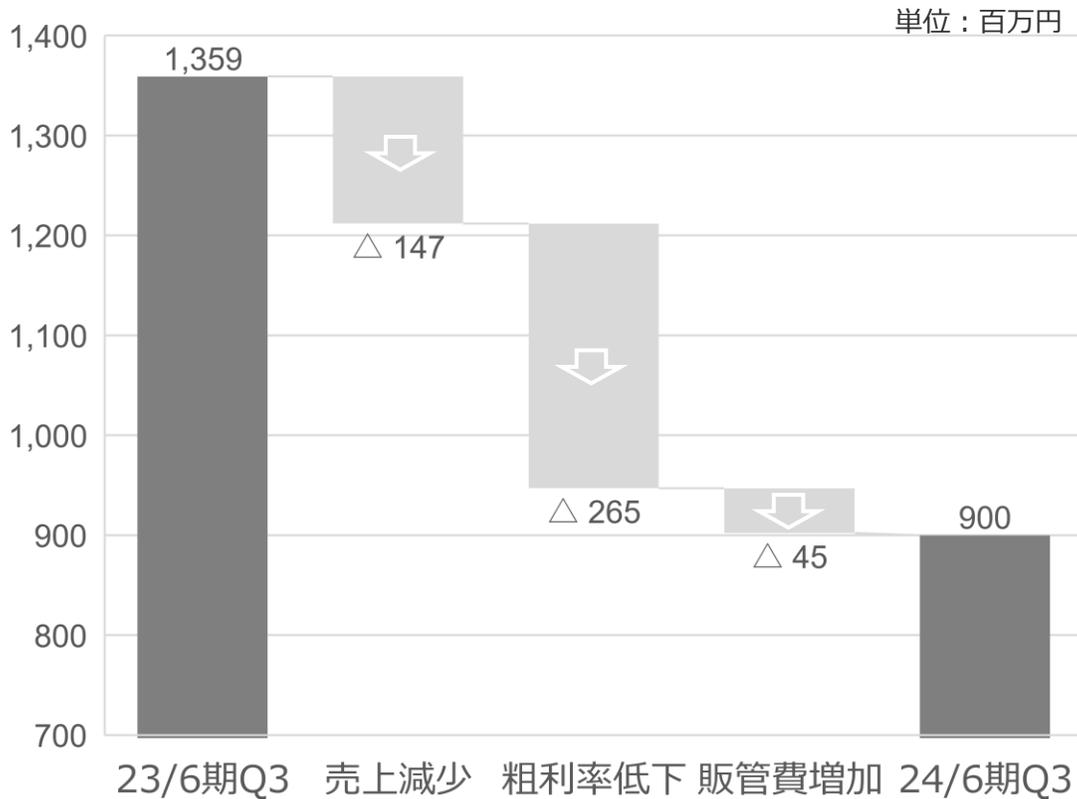
販管費増減 前年同期比 Δ 121

- 海外養殖での管理人件費（人員増、賃金上昇）の増加、業務委託費（パブリックコミュニケーション・法務）の増加の影響

要因別セグメント利益増減（国内加工事業）

前期の高騰相場からの市場在庫・価格の調整過程にあり、売上が減少するとともに利益率が低下し、セグメント利益は前年より458百万円減少した

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高減少による影響

前年同期比△147

- 前期に魚卵価格が高騰し消費がにぶっていた状況で2022年秋鮭が豊漁となり市中在庫が大きく増加した。そのため販売価格が下落したが、市中在庫超過の調整過程で販売数量的には伸びずに売上高が減少。これにより、売上総利益は△147。

粗利率低下による影響

前年同期比△265

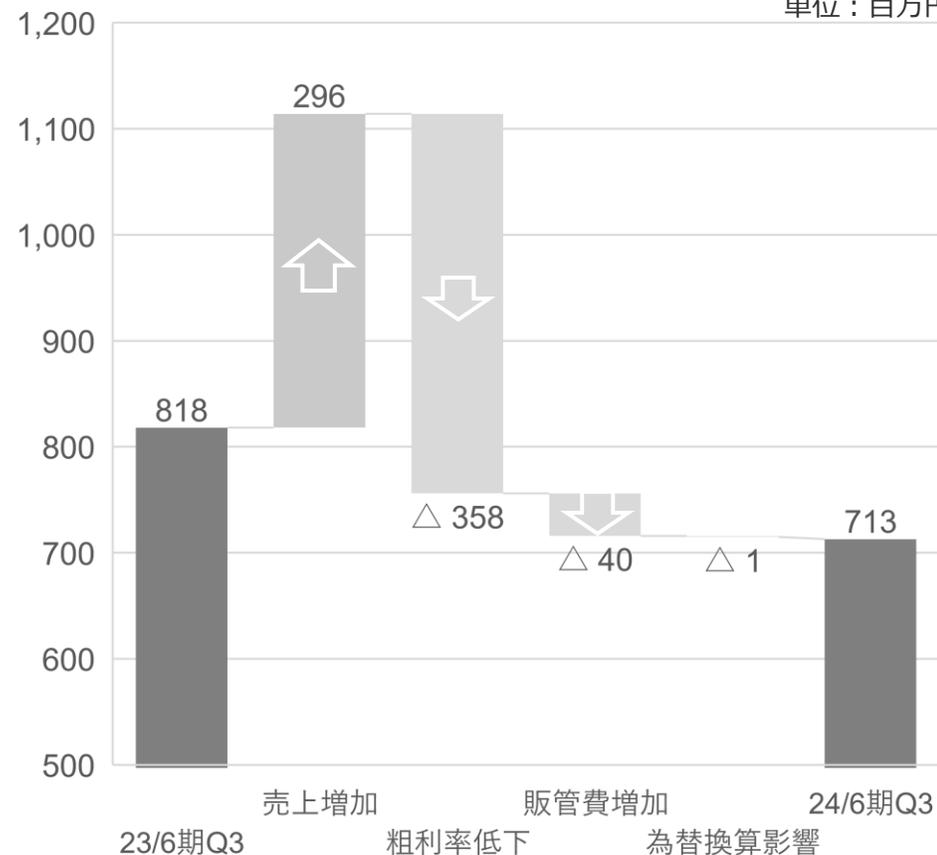
- 国内加工事業では、魚卵収穫時期の関係上、主に秋に1-1.5年分の原料仕入を行う。そのため、仕入と販売のタイムラグが大きく、相場の変動局面では販売価格が先に低下し、利益率が低下するというサイクルが生じる。新物仕入により仕入価格の低下が生じたものの、当Q3はこのサイクルにより前年同期に比べ粗利率が大幅低下。

要因別セグメント利益増減（海外加工事業）

主力のオカムラ食品工業では販売価格上昇により国内外で売上は増加するも、原料単価の上昇の影響で利益率は低下し、セグメント利益は104百万円減少した

セグメント利益増減

単位：百万円



増減補足説明

売上高増加による影響

前年同期比+296

- 世界的にサーモン相場の高止まりが続く中、国内は価格面が好調に推移、海外はコロナ禍後に市場が急速に回復・拡大し販売好調。

粗利率低下による影響

前年同期比△358

- 前期は相場高騰過程で値上げ先行により高利益率、当期も高値相場は継続しているが前期に比べ当期は十分な価格転嫁が困難になり、全体の粗利率が低下。

販管費増加による影響

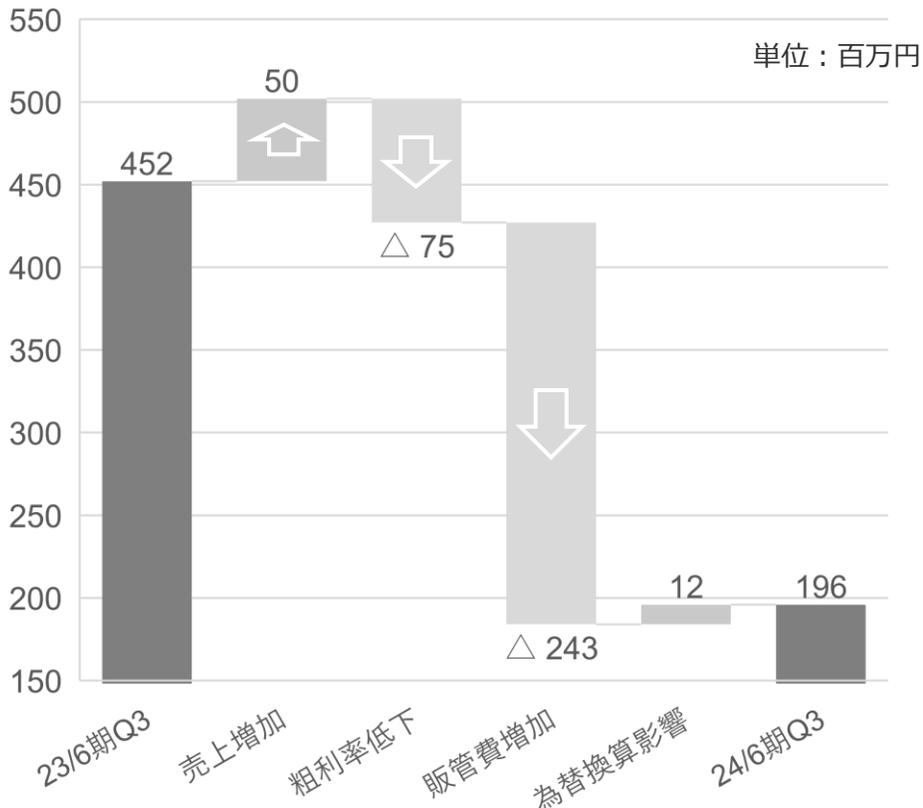
前年同期比△40

- 在庫増加に伴い倉庫関連費用などが増加。

要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

コロナ禍後の東南アジアの需要拡大により売上は増加するも、事業強化・拡大に伴う人件費、倉庫費用、償却費増加等によりセグメント利益は256百万円減少した

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高増加による影響

前年同期比+50

- アジア市場では、引き続き需要拡大傾向が継続。

粗利率低下による影響

前年同期比△75

- サーモン加工工場の立上げ期の費用増加、利益率の高いスポット取引がなくなったことなどで全体の粗利率が低下。

販管費増加による影響

前年同期比△243

- 事業強化・拡大に伴う人件費、倉庫費用、償却費増加による影響。

貸借対照表増減サマリー

(単位：百万円)

資産	2023年6月末	2024年3月末	増減
流動資産	22,581	32,776	10,194
現金及び預金	2,062	6,456	4,393
売上債権等	3,235	3,722	487
棚卸資産	14,785	19,410	4,625
その他	2,498	3,186	688
固定資産	7,529	9,276	1,746
有形固定資産	7,049	8,803	1,754
無形固定資産	66	67	1
投資その他の資産	414	405	△8
資産合計	30,111	42,053	11,941

負債	2023年6月末	2024年3月末	増減
流動負債	15,439	22,935	7,495
仕入債務	1,067	1,823	755
借入金	10,947	17,491	6,544
その他	3,424	3,619	195
固定負債	4,703	5,703	1,000
借入金	3,422	4,021	599
その他	1,281	1,682	400
負債合計	20,143	28,638	8,495
純資産			
純資産合計	9,968	13,414	3,446

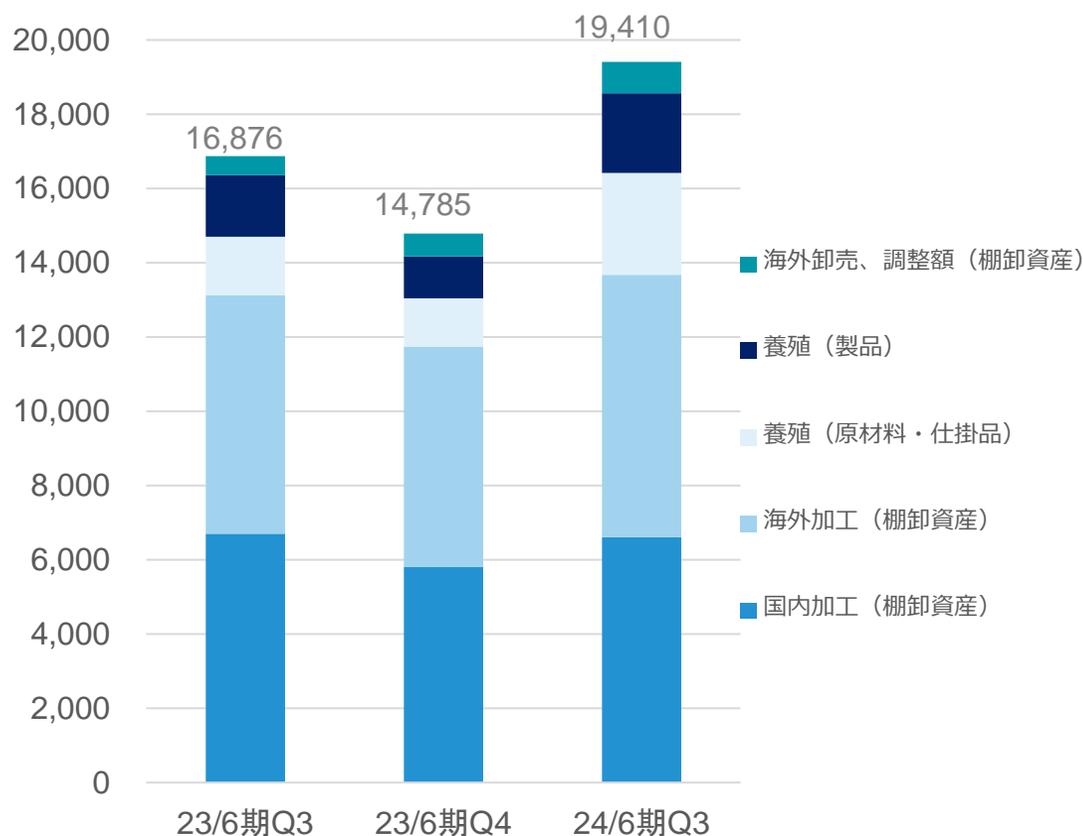
▶ 主なトピック：季節変動を主要因とする棚卸資産増（P.16参照）、上場時の公募増資、設備投資の進捗（P.17参照）

棚卸資産増減内容

国内加工事業、海外加工事業の仕入シーズンと養殖事業の評価替・魚の生育等により、棚卸資産は前期末より4,625百万円増加した

棚卸資産残高推移

単位：百万円



増減補足説明

- 国内加工（棚卸資産）** 前期末比+798
 - 漁獲時期の関係上、国内加工事業の原料（魚卵）仕入は9月～12月に集中。Q3は仕入後のため在庫増加。
- 海外加工（棚卸資産）** 前期末比+1,129
 - 海外加工事業の原料はサーモンとサバ。サーモンの仕入は原則通年行われる。一部魚種で、Q2・Q3の時期に年に一度の仕入が生じるため増加（サバはQ2で、デンマークトラウトはQ2・Q3で仕入）。
- 養殖（原材料・仕掛品）** 前期末比+1,448
 - 国内養殖のQ3は水揚げ直前の時期に当たるため、養殖魚簿価の増加等により、前期末比+1,448。

設備投資の進捗状況

- 当社の成長戦略である国内養殖量の拡大に向けて、ボトルネックとなっている中間養殖場への設備投資を実施。今別中間養殖場第2・第3水槽は予定通り完成、稼働済。
- これにより**成魚9百トン程度の養殖キャパシティ増**（24/6通期見込に反映済み）
- なお、計画中の秋田県八峰町の中間養殖場の設備投資については工事着工に向けて進捗中

今別中間養殖場第2・第3水槽（日本サーモンファーム）



今別中間養殖場の水槽	想定中間魚生産量 (t)	想定成魚生産量 (t)	稼働時期
第2水槽	40	168	2023年10月
第3水槽	180	756	2023年10月
計	220	924	

今別中間養殖場のココがすごい！

- 河川を利用しないので
 - 水利権が不要で事業展開がしやすい
 - 大雨等による河川氾濫の影響を受けるリスクが低い
 - 河川への環境負荷がなく、環境配慮型養殖が可能（ASC認証の取得がしやすい）

Ⅱ. 2024年6月期 通期業績見通し



通期業績予想

通期業績予想については、2024年2月14日に修正発表した数値から変更はございません。

【連結】

(単位：百万円)	24/6期Q3 累計	前年同期 増減	前年比 (%)	24/6期 修正予想	前期 増減	前年比 (%)
売上高	22,848	1,992	9.6	33,941	5,001	17.3
営業利益	1,830	△968	△34.6	2,261	△925	△29.0
経常利益	2,041	△992	△32.7	2,087	△1,457	△41.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,374	△688	△33.4	1,419	△969	△40.6

注：24/6期Q3累計経常利益2,041には、為替差益142が含まれております。

株主還元

配当予想については期初発表予想からの変更はなし

➤ 今後は、株主資本配当率等を参考に安定した配当を継続して実施する方針です。

	年間配当		
	第2四半期末	期末	合計
期初発表予想	17円00銭	17円00銭	34円00銭
ご参考： 前期実績（2023年6月期）※	—	9円00銭	9円00銭

※ 2023年7月29日付で普通株式1株につき30株の割合で株式分割を行っていますが、上記は当該株式分割後の金額に換算して表示しております。

Ⅲ. 参考資料



四半期ごとの季節変動について（売上高）

□ セグメント別 四半期推移（外部顧客への売上高）



<各セグメントの主な季節要因>

○ 養殖事業

水揚げ時期に売上が集中する傾向があります。水揚げ時期は国内養殖が4～6月（第4四半期）、デンマークの養殖が10～12月（第3四半期・決算日差異あり）になります。

○ 国内加工事業

取扱っている製品（いくら、筋子、数の子）の性格上、年末商戦（第2四半期）に売上が集中、年始はその反動で売上が落ち込むという傾向があります。

○ 海外加工事業

特に大きな季節要因はありません。

○ 海外卸売事業

特に大きな季節要因はありません。

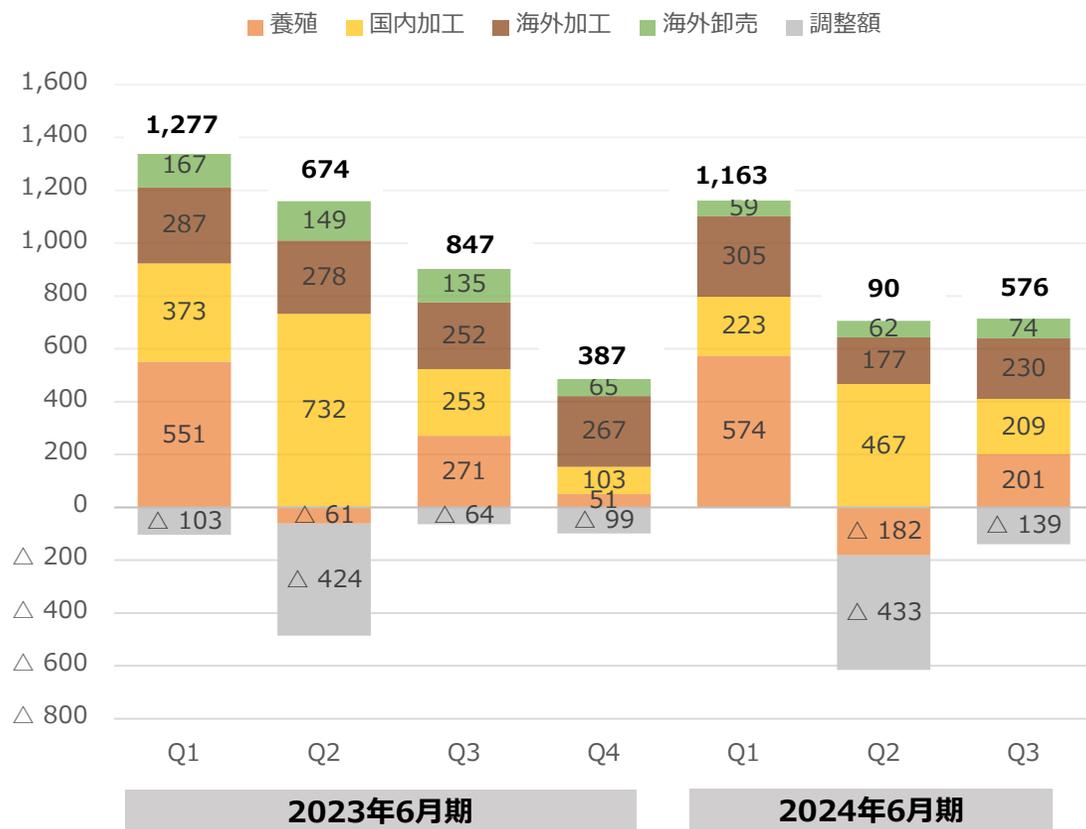
(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）

□セグメント別 四半期推移（セグメント利益）

(百万円)



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

Q1

国内・海外ともに水揚げ時期ではありませんが、デンマーク子会社（IFRS適用）の年間販売利益の見込額がQ1に一括で計上されます。

Q2

国内・海外ともに水揚げ時期ではないため、販売利益は少なくなる傾向があります。

Q3

デンマーク子会社の水揚げ時期にあたります。デンマーク子会社の販売利益の見積差額（実績値との差）はこの時期に多く計上される傾向があります。

Q4

国内養殖の水揚げ時期にあたります。国内養殖の販売利益はこの時期に多く計上される傾向があります。

○国内加工事業/海外加工事業/海外卸売事業

前頁参照

○調整額

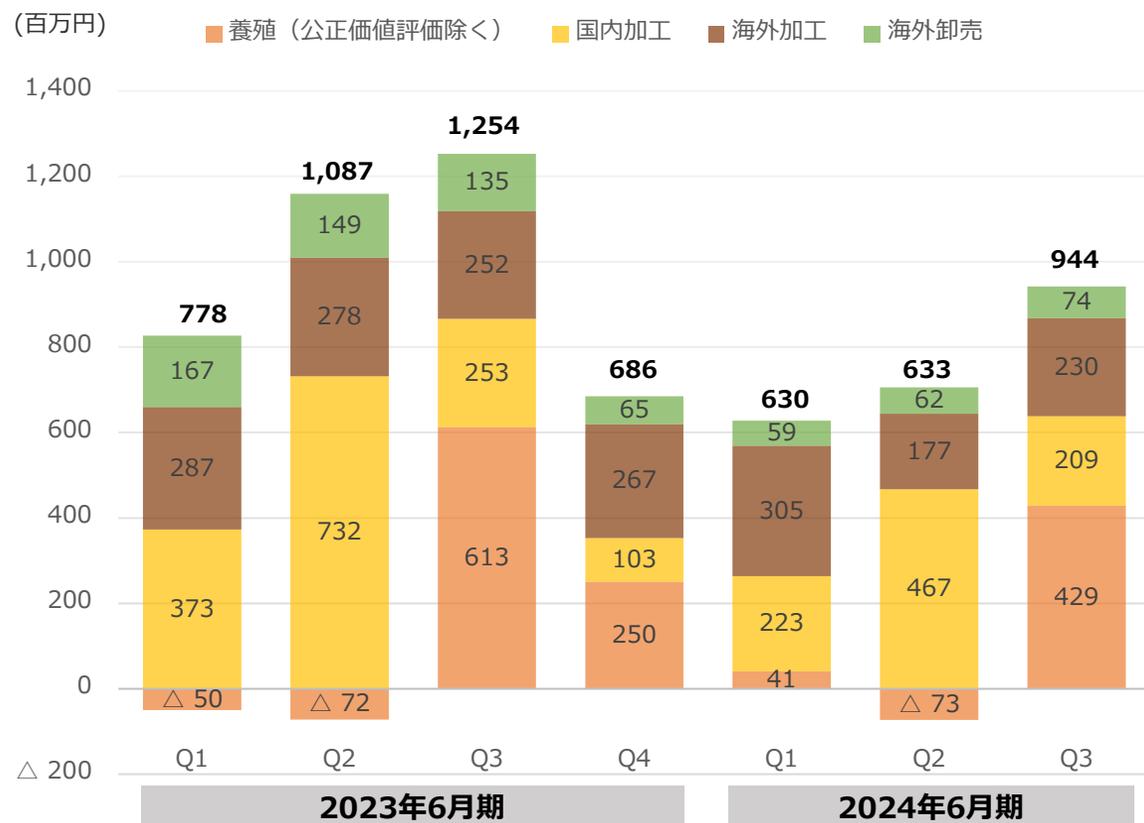
全社費用に加え、グループ内取引によって生じた棚卸資産未実現利益の控除を含みます。これはQ2に多く計上される傾向があります。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（IAS41号に基づく公正価値評価損益を除いた場合のイメージ）

□セグメント別 四半期推移（調整額控除前セグメント利益）



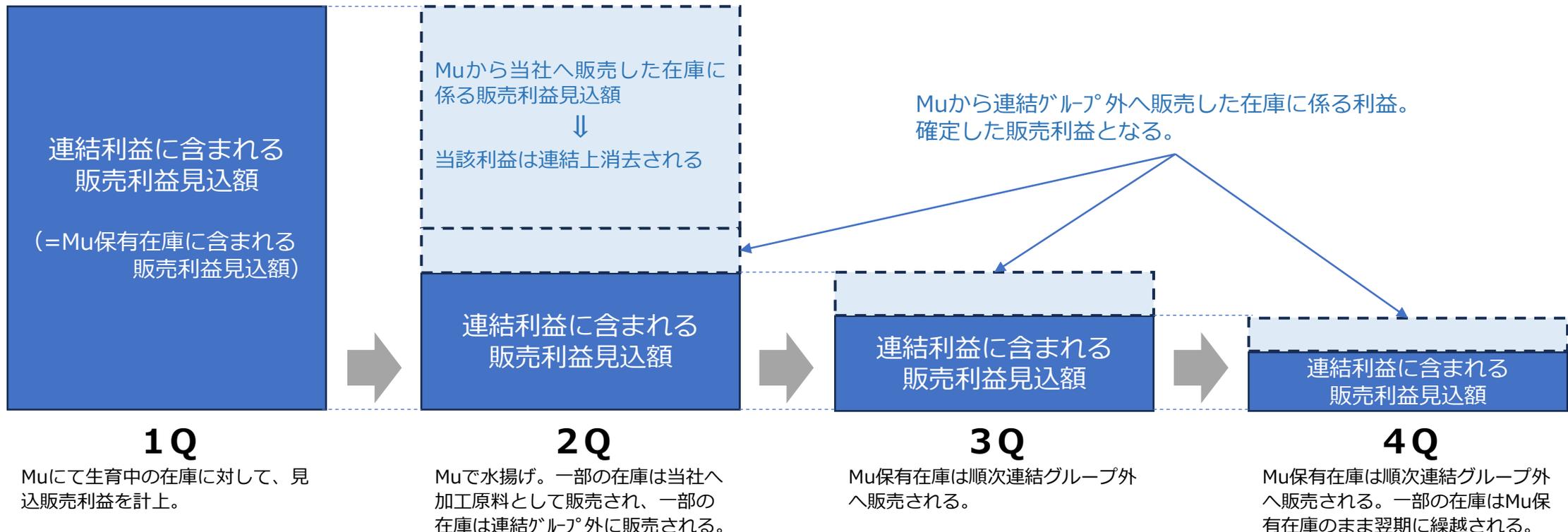
公正価値評価損益の影響を除いた季節変動（日本の会計基準で処理した場合に近似する）は左記のとおりです。

(注)

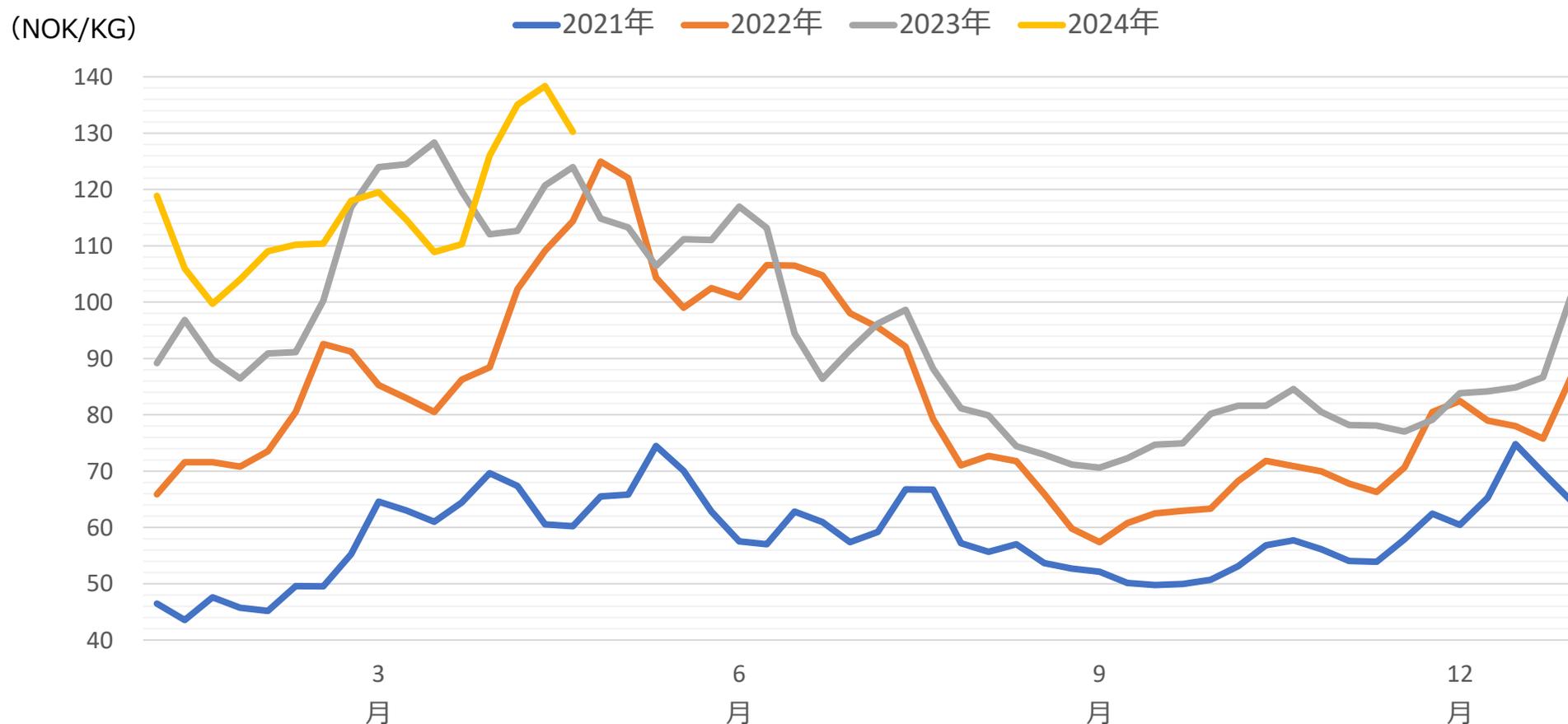
- セグメント利益の調整額（全社費用、棚卸資産に含まれる未実現利益の消去、など）を控除する前の数値です。
- 左記の試算は、監査法人のレビューは受けておりません。

養殖事業を行うデンマーク子会社における未実現利益の計上

- 養殖事業を行うデンマーク子会社のMusholm社（以下「Mu」）は、国際財務報告基準（IFRS）を採用しており、IAS第41号「農業」に従った処理を行っています。すなわち、保有在庫（養殖魚）を公正価値で評価するため、保有在庫（養殖魚）は販売利益見込額を含んだ金額で資産計上されることになります。
- 販売利益見込額は、基本的にはMuで保有する在庫に対してのみ計上されます。
- この処理はIFRS特有の処理です。日本の会計基準の観点からすると、当該販売利益見込額だけ、利益が嵩上げされた形になります。そのため、日本基準で作成された決算と比較するには、この部分を控除して考える必要があります。

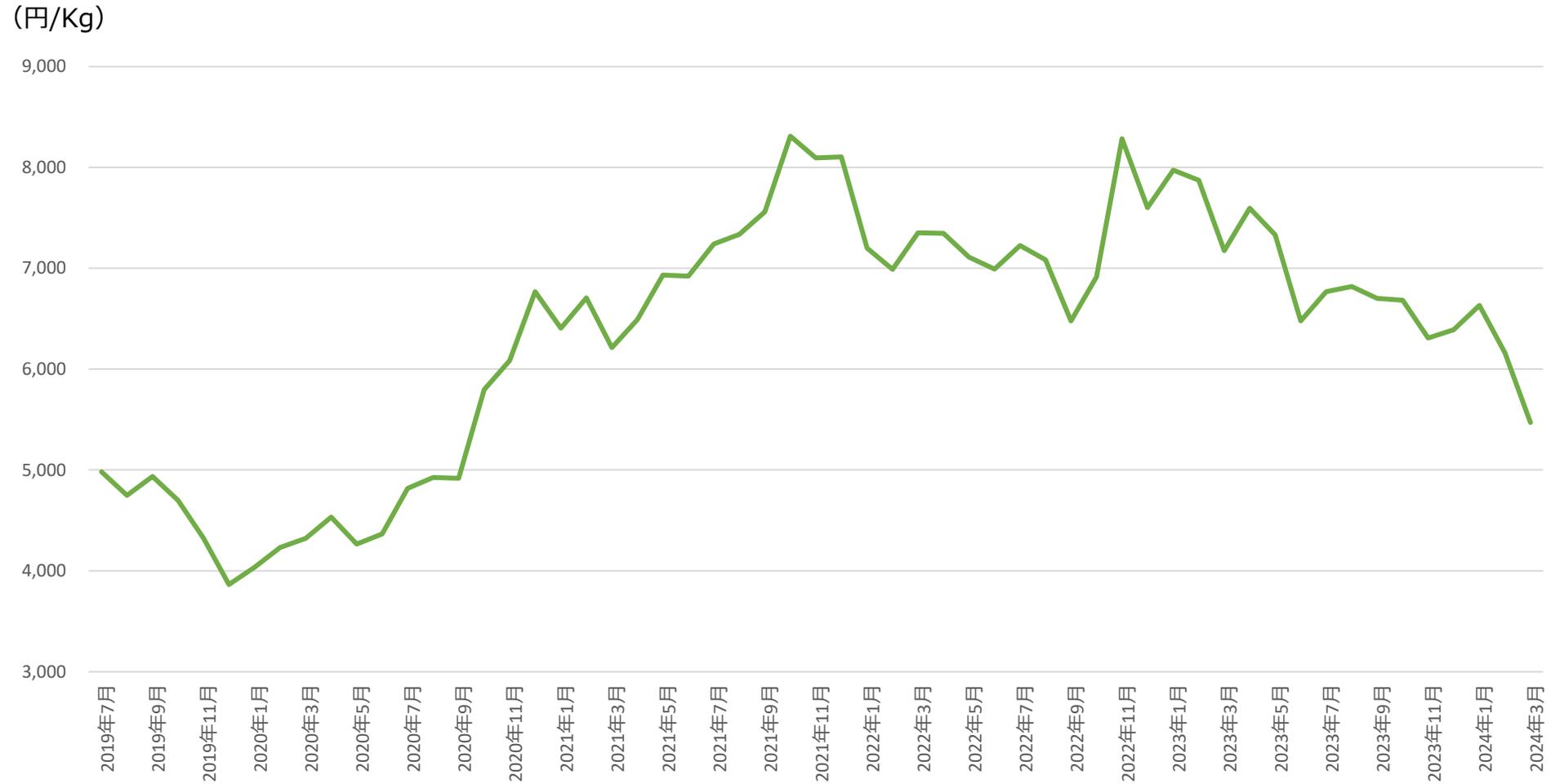


アトランティックサーモンのスポット価格 (Fish Pool Index)



※ 上記グラフは、当社グループが養殖しているサーモントラウトとは異なる魚種であるアトランティックサーモンのスポット価格を表示しています。サーモントラウトにはこのような指標はないため、魚種は異なるものの、当社グループでは便宜的に当指標を予算策定や市場トレンドを測る際の参考指標として利用しています。なお、実際の取引価格は国内需給や輸送コストなど様々な要因に基づいて決定されます。あくまで当指標は一参考指標としてご覧いただく必要がある点にご留意ください。

豊洲市場のいくら平均価格推移



出展) 東京都中央卸売市場・市場統計情報

ESGへの取組み

ESGへの取組みはぜひ『統合報告書2023』をご覧ください

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS06465/bcc5d563/38f3/4887/b94e/f619e1150625/20240131131458198s.pdf>

当社グループでは、2022年版より統合報告書を発行し、今回が2回目の発行となります。



統合報告書を通じて、当社の事業内容、存在意義、可能性、企業価値向上に向けた取組みなどを、多くのステークホルダーの皆様にお伝えできればと考えています。

IPOを経てのトップメッセージ



国内の養殖子会社社長へのインタビュー



デンマークの養殖子会社社長へのインタビュー



社外取締役へのインタビュー



本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、商品相場動向など潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

株式会社 **オカムラ** 食品工業